

「へいわってすてきだね」

が生まれた背景を
ご紹介します。

平和の詩

6月23日の慰霊の日には、沖縄全戦没者追悼式で朗読される詩。毎年、沖縄県平和祈念資料館が募る「児童・生徒の平和メッセージ」詩部門で、最優秀作品に選ばれたうち1点が、作者によって朗読されます。

ASAIO YUKI 安室有生くん

2007年、沖縄市生まれ。

2013年、与那国島の久部良（くぶら）小学校に入学し、「才23回 児童・生徒の平和メッセージ」に大募集。詩部門で

小学校低学年の部で

最優秀賞に選ばれました。



与那国島

日本西端の島。紺碧の海に囲まれた小島には、詩のとおり与那国馬が放牧され、長命草が自生し、芝生でヤギが草を食んでいます。



取材の様子です

6月23日沖縄慰霊の日

沖縄の人たちが最も大切にしている「慰霊の日」。20万人あまりの尊い命が奪われた沖縄戦の終結の日です。

長谷川義史さん

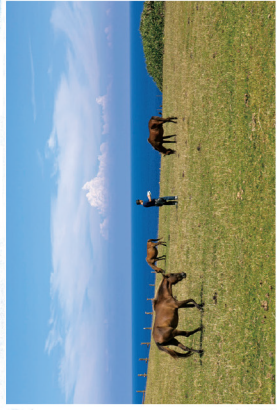


1961年、大阪生まれ。グラフィックデザイナー、イラストレーターを経て絵本作家へ。独特のタッチとユーモアあふれる作品が特徴。『8月6日のこと』(河出書房新社)や『ほうれんそう』はなっています(ポプラ社)などの社会性のあるテーマにも意欲的に

取り組み、日本を代表する絵本作家です。



歳はずいぶん離れているけれど、ぼくは安里くんに友情を感じました。



プロンズ新社 2014年 6月17日発売予定!



小学一年生の男の子が書いた平和への思い。純粋で、素直で、力強い、まっすぐな願いの誓いの詩を、いまの日本に、そして世界の人々に、ひとりでも多く伝えたい。

絵本作家 長谷川義史



6歳の安里くんはかんがえたよ。

へいわってなにかな?



かんがえる? へいわってどんなこと? かんがえてみてね。

かんがえる? へいわってどんなこと? かんがえてみてね。

プロンズ新社 営業部 <http://www.bronze.co.jp/>
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 6-31-15-3B
tel. 03-3498-3272 月1刷 2014年 4月発行

へいわってすてきだね

安里くんの詩
全文です。

へいわってなにかな。

ぼくは、かんがえたよ。

おともだちとなかよし。

かぞくが、げんき。

えがおであそぶ。

ねこがわらう。

おなかがいっぱい。

やぎがのんびりあるいてる。

けんかしてもすぐなかなおり。

ちょうめいそうがたくさんはえ、

よなぐにうまが、ヒヒーンとなく。

みなとには、フェリーがとまっていて、

うみには、かめやかじきがおよいでる。

やさしいところがにじになる。

へいわっていいね。へいわってうれしいね。

みんなのころから、へいわがうまれるんだね。



せんそうは、おそろしい。

「ドドーン、ドカーン。」

ばくだんがおちてくるこわいおと。

おなかがすいて、くるしむこども。

かぞくがしんでしまってなくひとたち。

ああ、ぼくは、へいわなときにうまれてよかったよ。

このへいわが、ずっとつづいてほしい。

みんなのえがおが、ずっとつづいてほしい。

へいわなかぞく、

へいわながっこう、

へいわなよなぐにじま、

へいわなおきなわ、

へいわなせかい、

へいわってすてきだね。

これからも、ずっとへいわがつづくように

ぼくも、ぼくのできることからがんばるよ。

2013年6月23日 沖縄全戦没者追悼式で
久部良小学校1年 安里 有生



『へいわってすてきだね』
あとがきには、
長谷川さんの
思いがい
つづられています。



ぜひ、
読んでみてください！



この詩は、日本の一番西にある、沖縄県与那国町立久部良小学校1年生の、安里有生くんが書いた「へいわってすてきだね」という詩です。

沖縄県平和祈念資料館がつかった「平和のメッセージ」によせた詩です。

2013年6月23日、沖縄平和祈念公園での「沖縄全戦没者追悼式」で安里くんが朗読しました。

それを見て聞いて、沖縄のおじい、おばあが、涙をながしたそうです。

小学1年生の男の子が書いた平和への思い。純粋で、素直で、力強い、まっすぐな願いの誓

いの詩を、いまの日本に、そして世界の人々に、ひとりでも多く伝えたい。

その年の9月、ぼくは安里くん会いに、与那国島をたずねました。

そこは、この詩のとおり、長命草がたくさんはえ、与那国馬がヒヒーンとなく、青く美しい、光まばゆい、風吹く、そして、のんびりした、おだやかなところでした。

「このへいわがずっとつづいてほしい」という安里くんの思い願いを、そのまま感じました。

安里くんのご家族は、やさしく迎え入れてくれました。

翌日、久部良小学校で、安里くんと子どもたちに、ぼくは絵本を読みました。校庭に出て、

校舎の前の階段に腰かけて、安里くんと話しました。歳はずいぶん離れているけれど、ぼくは安里くんに友情を感じました。

また会おうね、とお別れして、島の小さな飛行場に向かいました。9月でも痛いような陽ざしのなか、飛行機に乗りこもうとしたときでした。見送りデッキから、手をふってくれる、安里くんと安里くんのご家族が見えました。この島の、あの友の、思いを、願いを、しっかり描かねば。

いかなる理由があるにせよ、いえ、理由なんてないのです。人々を殺し、傷つけることは、まちがいです。あの子たち、この有生くんたちを、戦争という名の、残酷で恐ろしい殺し合いに、巻きこんではいけない。

そのことを、そのごくあたり前のことを、光のなかに生まれてきた一人の少年が、ぼくたちに教えてくれているのです。

長谷川義史 (あとがきより)

6才の少年の詩を
長谷川義史が
魂で描いた!!



『へいわってすてきだね』

本体1,400円+税
ISBN978-4-98309-587-9

ブロンズ新社

詩 © Okinawa Prefectural Peace Memorial Museum
イラスト © Yoshifumi Hasegawa

